

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-169	24-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Age of Onset and DSM-5 Alcohol Use Disorder in Late Adolescence - A Cohort Study From Sweden 飲酒開始年齢と DSM-5 アルコール使用障害との関連：スウェーデン青年期縦断コホート研究			
執筆者			
Raninen J, Callinan S, Gmel G, Brunborg GS, Karlsson P.			
掲載誌			
J Adolesc Health. 2024 Oct;75(4):620-625. doi: 10.1016/j.jadohealth.2024.06.007.			
キーワード		PMID	
青年期後半; 飲酒開始年齢; アルコール使用障害; スウェーデン		39066748	
要 旨			
<p>背景：アルコール使用障害 (AUD) は青年期後半において高い有病率を示し、発症時期の早さが将来的なリスク因子となる可能性が指摘されている。しかし、飲酒開始年齢とその後の AUD との関連についての縦断的研究は限られている。本研究では、スウェーデンの全国コホート縦断データを用いて、飲酒開始年齢別の AUD の有病率について検討した。</p>			
<p>方法：スウェーデン全国でベースライン時(T1)15～16 歳、追跡時(T2)17～18 歳の青少年 3,999 名を対象とした前向き縦断コホート研究が 2017～2019 年に実施され、本研究では追跡時 T2 において飲酒していた 2,778 名を解析対象とした。初回調査時 T1 ですでに飲酒経験のあった「早期開始群」と、T1 では飲酒しておらず追跡時 T2 に飲酒を開始していた「遅延開始群」に分類した。DSM-5 の AUD 診断基準に対応した 11 の質問項目から AUD を判定し、AUD の有病率および項目を満たす割合を比較した。交絡因子として、T1 時に性別、刺激追求傾向、衝動性、情動性症状、仲間問題 (いじめ、仲間はずれ、対立、孤立などを指す)、素行障害などを調査し、それらを調整した線形確率モデルにて解析を行った。</p>			
<p>結果：早期開始群では、遅延開始群と比較して有意に高い AUD 有病率(36.3% vs 23.1%、$p<0.001$)であり、上記共変量で調整後にも有意であった($\beta=0.080$、$p<0.001$)。DSM-5 基準の全項目で早期開始群の方が項目を満たす割合が高く、「耐性」「計画以上の飲酒 (larger/longer)」は高頻度であったが、両群間で報告された各質問項目の構成的な差異はなかった。</p>			
<p>結論：スウェーデン青少年において、飲酒開始年齢は青年期後半における AUD の強力な予測因子であった。早期飲酒開始は AUD リスクを高めるが、報告される AUD 診断基準の項目や構成に差はみられなかった。したがって、飲酒開始を遅らせることは青年期の AUD 発症予防に有効と考えられるが、治療や診断において発症年齢の差異を考慮する必要はない。</p>			